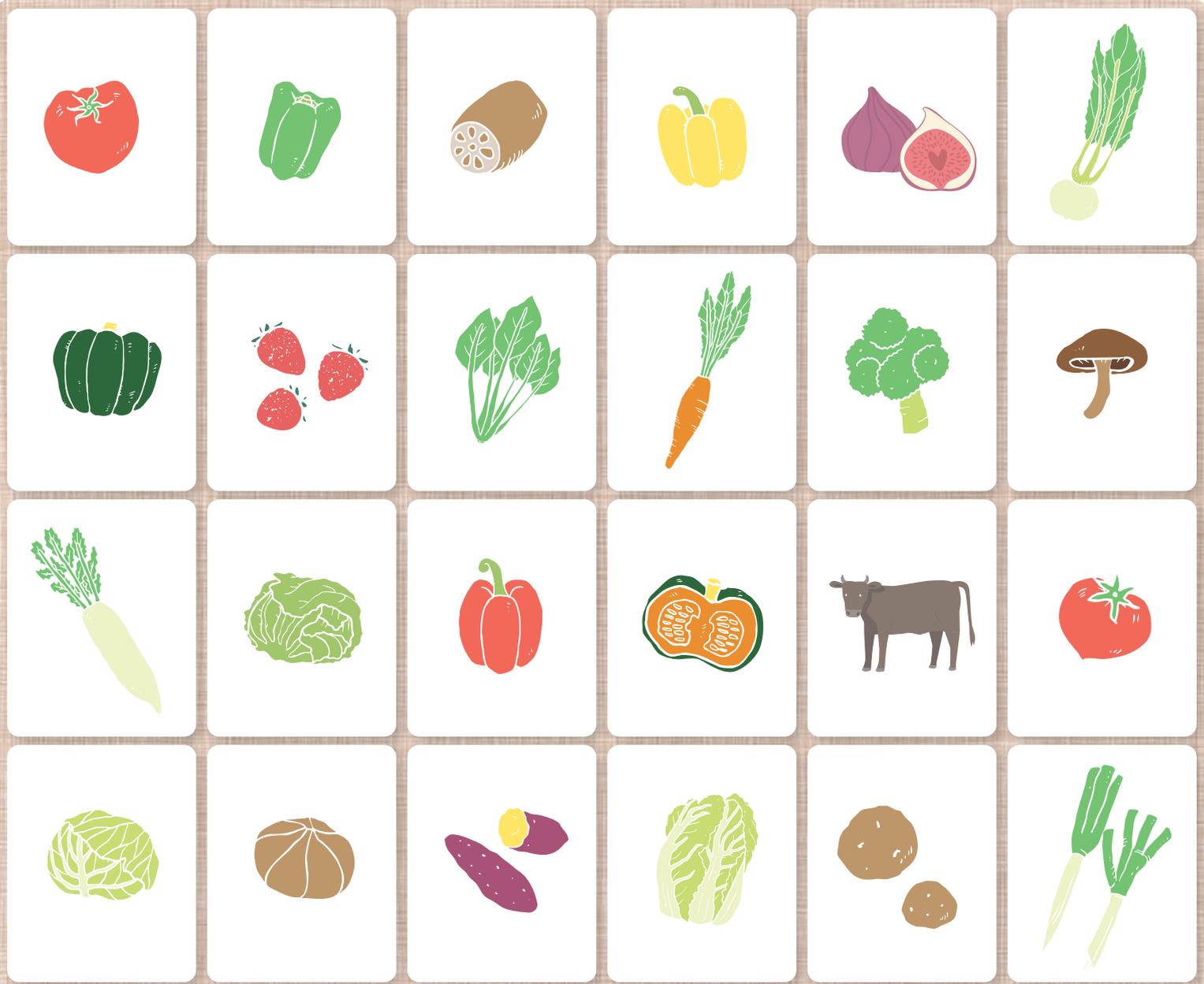


ひょうごの JAグループ・ガイドブック



01 JAについて



相互扶助の精神のもとに農業者の営農と生活を向上し、
よりよい社会を築くことを目的に組織された協同組合

JAは、日本の農業と地域の暮らしを支えるために、さまざまな事業を総合的に行う協同組合です。営農指導や農畜産物の共同販売、資材や生活物資の共同購入などを通じて農業者の営農活動を支え、地域農業の発展に取り組んでいます。

また、貯金の受け入れや資金の貸し付けを行う信用事業や、万が一の場合に備える共済事業など、生活全体を支えるサービスにも幅広く携わり、地域の人々が安心して暮らせる環境づくりを進めています。このように農業と生活の両面から地域に寄り添い、豊かな地域社会をつくること、それがJAの役割です。

JAグループのめざす姿

持続可能な農業の実現

消費者の信頼や実需者のニーズにこたえ、安全で安心な国産農畜産物を安定的に供給できる持続可能な地域農業を確立し、農業者の所得増大を支える姿

豊かでくらしやすい地域共生社会の実現

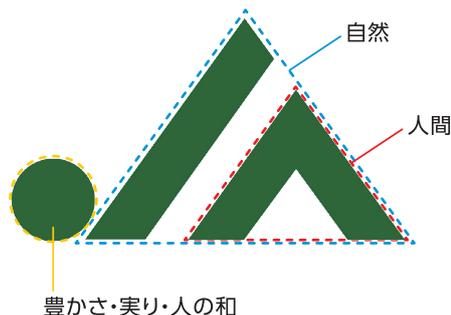
総合力を発揮して地域の生活インフラ機能の一翼を担い、多様な関係者とともに協同の力で豊かでくらしやすい地域共生社会を実現している姿

協同組合としての役割発揮

次世代や地域共生社会の構成員とともに、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、経営の健全性を確保し、役割を発揮している姿

JAは農業協同組合の愛称

JAとは「Japan Agricultural Co-operatives (日本・農業・協同組合)」の頭文字をとったものです。1992年4月から、JAが農業協同組合の愛称として統一されました。シンボルマークは緑のアルファベットのJとAを組み合わせたデザインで、どっしりとした大地と人と人のきずなのイメージを表したものです。



JA綱領について

JAの基本的な価値・役割やめざす方向を共有するため、組合員・役職員の共通の理念として、「JA綱領」を1997年の第21回JA全国大会で決めました。JAが農業と地域社会に根ざした組織として、農業はもちろん、食や緑、さらには環境・文化・福祉を通して地域社会とともに歩む存在であることを宣言しています。

JA綱領

-わたしたちJAのめざすもの-

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則(自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等)に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 一、地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 一、環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 一、JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 一、自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 一、協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

正組合員と准組合員

JAの組合員には、農業者である「正組合員」と、地域内に住んでJAの事業を利用する「准組合員」の2種類があります。JAは農業者の組織であるため、正組合員と准組合員では、運営に参加する権利の一部に違いがあります。

正組合員



農業者、
農業を営む法人

准組合員



議決権や
選挙権などが
無い

地域住民のうち
JAの事業を
利用する人

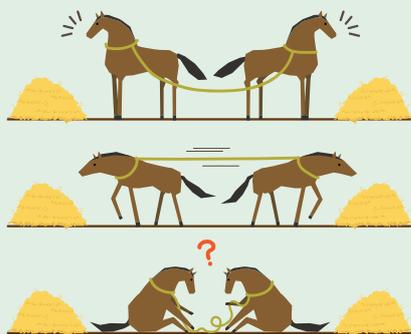
02 協同組合について



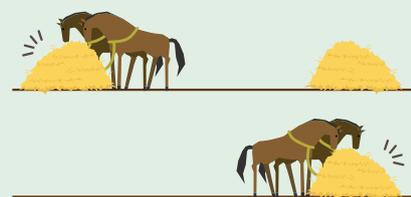
協同組合とは

共通の利益を実現するために、個々では弱い立場にある人々が集まり、互いに助け合うこと(=相互扶助)によって、自分たちの暮らしや地域をよりよくしていこうとして作られた組織です。

「1人は万人のために、万人は1人のために」



互いが身勝手にふるまうと、どちらもえさに届かない



協力し合うことで互いに利益が得られる

協同組合と株式会社の違い

	協同組合	株式会社
目的	組合員の経済的・社会的地位の向上	利益の追求
組織者	農業者、漁業者、森林所有者、勤労者、消費者、中小規模の事業者など【組合員】	投資家、法人【株主】
事業と利用者	事業利用を通じた組合員への最大の奉仕 利用者は組合員	利益金の分配を通じた株主へのサービス 利用者は不特定多数の顧客
運営者	組合員(その代表者)	株主の代理人としての専門経営者
運営方法	1人1票制	1株1票制

POINT 1

相互扶助

協同組合は、一人ひとりでは弱い立場の人々が連帯し助け合うという相互扶助の精神を基本的な考え方にしています。一方、株式会社は株主で構成され、競争原理を基本的な考え方にしています。

POINT 2

目的は 生産活動や生活の向上

協同組合は、組合員の生産活動や生活を向上させることが目的で、事業利用を通じて組合員への最大の奉仕を図ります。

POINT 3

組織者、利用者、運営者が 三位一体

協同組合の組合員は、組織(出資)者であり、組織の運営を行い、事業の利用者でもあります。一方、株式会社は、出資者は株主ですが、事業を利用するのは不特定多数の顧客です。また、株式会社は1株1票ですが、協同組合では議決権が1人1票で運営されます。

協同組合原則について

国際協同組合同盟(ICA)は、1995年9月にイギリスのマンチェスターで開かれた創立100周年記念大会で、世界の協同組合の活動指針を示す新しい「協同組合原則」を採択しました。

定義

協同組合とは、人々が自主的に結びついた自律の団体です。人々が共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、経済的・社会的・文化的に共通して必要とするものや強い願いを充すことを目的としています。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯という価値に基づいています。組合員は、創始者達の伝統を受け継いで、正直、公開、社会的責任、他者への配慮という倫理的な価値を信条としています。

原則

協同組合は、その価値を実践していくうえで、次の原則を指針としています。

- | | | |
|-------------------|---------------|----------------|
| 第1原則 自主的で開かれた組合員制 | 第4原則 自主・自立 | 第6原則 協同組合間の協同 |
| 第2原則 組合員による民主的な管理 | 第5原則 教育・研修、広報 | 第7原則 地域社会への係わり |
| 第3原則 組合財政への参加 | | |

協同組合とSDGs

持続可能な開発目標(SDGs)

2015年9月の国連サミットで、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、格差や飢餓の解消、気候変動への対応、男女平等の実現など、持続可能な世界へ変えていくための17の目標からなる「持続可能な開発目標(SDGs)」が定められました。このSDGsにおいて、協同組合は目標達成のための重要なパートナーとして位置付けられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs17の目標

SDGsとJAグループの取り組み

誰一人取り残さないというSDGsの目標は、協同組合の理念である相互扶助、「1人は万人のために、万人は1人のために」という精神と重なります。

JAは地域農業の振興や地域社会に密着した事業を展開し、活動しています。その取り組みはSDGsの達成に貢献しています。例えば、JAは新たに農業を始める人たちのサポートを行っています。それは目標8「働きがいも、経済成長も」や目標15「陸の豊かさを守ろう」の達成につながっています。

03 ひょうごのJAの取組み ① 農業

“組合員の「営農」を幅広く支援”

JAは、組合員である農業者のよりよい営農活動を実現するため、さまざまな事業を行っています。たとえば、組合員のニーズに沿った研修機会の提供や技術改良の指導、農家が生産した作物の共同販売、農業生産や生活に必要な資材・物資の共同購入、さらに大型共同利用施設の設置・運営など、組合員一人ひとりに寄り添った支援を通じて、地域農業の発展に貢献しています。



組合員の農業に関する4つの事業内容を、学生とJA職員の話で見てみましょう！

職員

兵庫県のJAでは、農家の方々をどのように支援しているのでしょうか？

まずは「**営農指導事業**」です。栽培技術や農業経営のアドバイス、研修などを通して、組合員の営農と生活を支えています。

一人では解決できない悩みも相談できそうですね。

はい。JAと農家と一緒に取り組むことで、農業所得の増大や、地域全体の生産力の維持・向上にもつながっています。

作った農畜産物はどうやって売るんですか？

それが「**販売事業**」です。組合員が生産した農畜産物をJAが集めて、共同で販売しています。

学生



学生





JAがまとめて売ること、どんなメリットがあるんですか？



品質や規格をそろえやすくなり、個人では難しい規模の取引も可能になります。直売所の運営や農畜産物の加工・販売にも取り組み、販路の拡大や農業収入の向上につなげています。



農畜産物だけでなく、加工品の販売にも取り組んでいるんですね！



はい。地域の特産品を活かした取り組みとして注目されています。



では、「買う」時のサポートもあるんですか？



はい。「**購買事業**」として、種苗や肥料、農薬、農機具などの生産資材、食品や日用雑貨などを共同で仕入れて、適正な価格で組合員に提供しています。



JAで生活用品まで扱っているんですね！知らなかったです。



そうなんです。また、営農指導事業と連携して、所得向上につながる生産資材の活用を提案しています。



資材の使い方のサポートもしてくれるんですね！
その他にも、農業をサポートしていることはありますか？



はい。それが「**利用事業**」です。米や麦の乾燥・調製・貯蔵をする施設や、野菜類を出荷するための施設をJAが設置し、運営しています。



それって、農家さんみんなで使う施設なんですか？



はい。個人で施設や機械を持つと大きな負担になるので、共同で利用することでコストを抑えたり、作業を効率化したりできるんです。

まさに「助け合い」の仕組みですね。JAの役割がよく分かりました！



04 ひょうごのJAの取組み ②生活



“組合員の「生活」を幅広く支援”

農業者がくらしを向上させるためには、農業所得をより多く増やす一方で、財産の管理や病気・災害などに対する備えも大切です。そのためJAは、農業関係の事業・活動に加えて、貯金の受け入れや資金の貸し付け、万が一の場合に備える共済など、組合員の営農とくらしに関わる事業を総合的に実施しています。JAが実施するさまざまな事業は、農業者以外の方も利用することができ、地域における生活基盤としての役割も果たしています。



組合員の生活に関する5つの事業内容を、学生とJA職員の会話で見てください！

JAは農業のこと以外にも幅広く取り組んでいると聞きました。まずは「信用事業」について教えてください。



JAの「信用事業」は、組合員の皆さんから貯金をお預かりして、必要な方に貸し付ける「相互金融」の仕組みをとっています。



組合員さん同士で貸し借りして助け合うイメージですね！



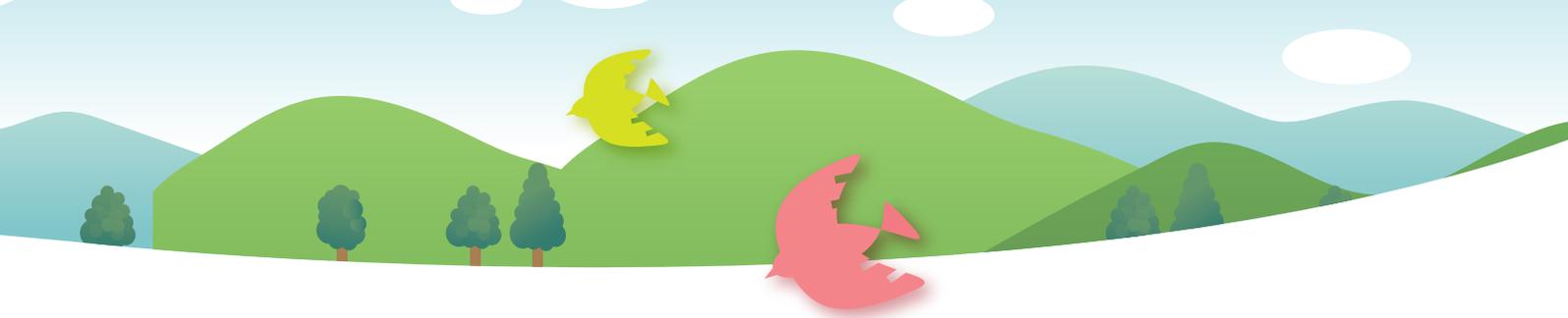
そうです。営農資金や生活資金の貸し付けなどを通して、組合員の営農と生活を支えています。JA・JA信連・農林中央金庫で構成する「JAバンク」として、金融サービスを提供しています。

「JAバンク」、よくCMで耳にします！「JA共済」も聞き馴染みがありますが、これは保険のような仕組みですか？



それが「共済事業」です。相互扶助の考え方をもとに、万が一の時にお互いに支え合う仕組みです。





一般の保険会社とどう違うんですか？



保険会社は営利目的ですが、JA共済は「組合員の生活の安定と将来の安心を守ること」が目的です。生命保障と損害保障、両方を扱っているのも特徴です。



人の安心も、建物の安心も守っているんですね！JAは農業だけじゃなくて、組合員の生活全体を支えていることがよく分かります。



その通りです。「**高齢者福祉事業**」もその一つです。



福祉事業というと、介護のことですか？



はい。介護事業をはじめ、見守り活動や配食サービスなど、高齢者の生活を支える取り組みを行っています。



高齢化が進む中こうした取り組みは大事ですね。あと、「**資産管理事業**」ではどんなことをするのですか？



組合員から土地活用や相続の相談を受けて、賃貸住宅の建設や物件管理など、資産を守るお手伝いをしています。



そこまで相談できるのは心強いですね！



そうですね！最後にもう一つ、「**厚生事業**」も紹介しておきますね。



厚生事業…健診とかですか？



はい。病気の予防や早期発見のために、健康診断や検診、健康相談、食生活改善の指導など、組合員の健康を守る取り組みを行っています。



身体のケアまでサポートしてくれるんですね。JAは農業のパートナーであり、生活のパートナーでもある…イメージがすごく変わりました！

05 ひょうごのJAの取組み ③ JAくらしの活動



JAは地域の活性化や、安心して暮らせる地域社会の実現を目指して「くらしの活動」を支援しています。「くらしの活動」とは、組合員や地域住民が抱える「くらし」のニーズを実現していくために行う活動です。農業体験や料理教室を通じた食農教育活動、組合員・地域住民の生きがいくくりとしての生活文化活動などがあります。

JAくらしの活動の内容

事業	内容	活動事例
食と農を結ぶ活動	食と農業の理解を深め、農業の大切さ・素晴らしさを広める	農業体験、料理教室、学校給食への食材提供、地産地消ツアー、国消国産活動 等
高齢者生活支援活動	元気な高齢者の生きがいくくりや生活の自立を支援する	高齢者福祉施設訪問、高齢者ふれあいサロン、助け合い活動、高齢者世帯に対する声かけ 等
健康管理活動	心身ともに健康で生き生きとした暮らしを支える	体操教室、健康料理教室、健診活動、健康相談 等
生活文化活動	組合員や地域住民の生きがいくくり、くらしの設計などを支援する	料理・手芸教室、ライフプラン研修会、家計簿記帳運動 等
地域貢献活動	安心して暮らせる豊かな地域社会づくりに貢献する	環境保全活動、交通安全教室、防災・防犯活動、子育て支援、学童保育 等
くらしの相談活動	組合員等の暮らしに関わるさまざまな問題解決を支援する	資産運用、年金・相続相談、農地の活用 等
組合員組織育成支援活動	組合員組織の自主・自立的な組織づくりを進める	世代別組織・目的別グループの育成、女性組織の活動支援 等



食農教育



福祉施設訪問



交通安全見守り

コラム①

持続可能な農業のための「国消国産」



「国消国産」とは、「私たちの『国』で『消』費する食べものは、できるだけこの『国』で生『産』する」という考え方のことで、JAグループ独自のキーメッセージです。日本は今、食料の約6割を海外からの輸入に頼っています。いざという時の食料に困らないために、「国消国産」を積極的に進め、農業を持続可能なものにしていく必要があります。JAグループは、「国消国産」の重要性を国民全体で一緒に考えていけるよう、国連が定める「世界食料デー」に合わせ、10月16日を「国消国産の日」として定めています。兵庫県内のJAにおいても、直売所や支店でのチラシ配布を通じて国産品・地場産品の購入を積極的に呼びかけるなど、地域住民の皆さんに「国消国産」の重要性を伝えています。



JA直売所や支店で配布された「国消国産」を伝えるチラシ

「国消国産」を進めると、いいことがたくさん!

食料自給率、アップ!

おいしくて、安全・安心!

食べて、日本の農業を応援!

輸送によるCO₂を削減!



コラム②

みんなの「よい食」を応援する「笑味ちゃん」^{えみ}

笑味ちゃんは、JAグループが進める「みんなのよい食プロジェクト」を応援するイメージキャラクターです。「みんなのよい食プロジェクト」とは、心と体を支える食の大切さ、国産・地元産の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝え、国産・地元産と日本の農業のファンになっていただくという運動です。「家庭菜園で頑張ってる野菜のサラダ」「バランス良く、しっかり噛んで食べる」「手作りの食事を毎日食べる」「忙しくても朝食を必ず食べる」…一人ひとり、自分にとっての「よい食」を考え実行してみることが、日本農業の応援、そして未来の食の安定につながるのです。

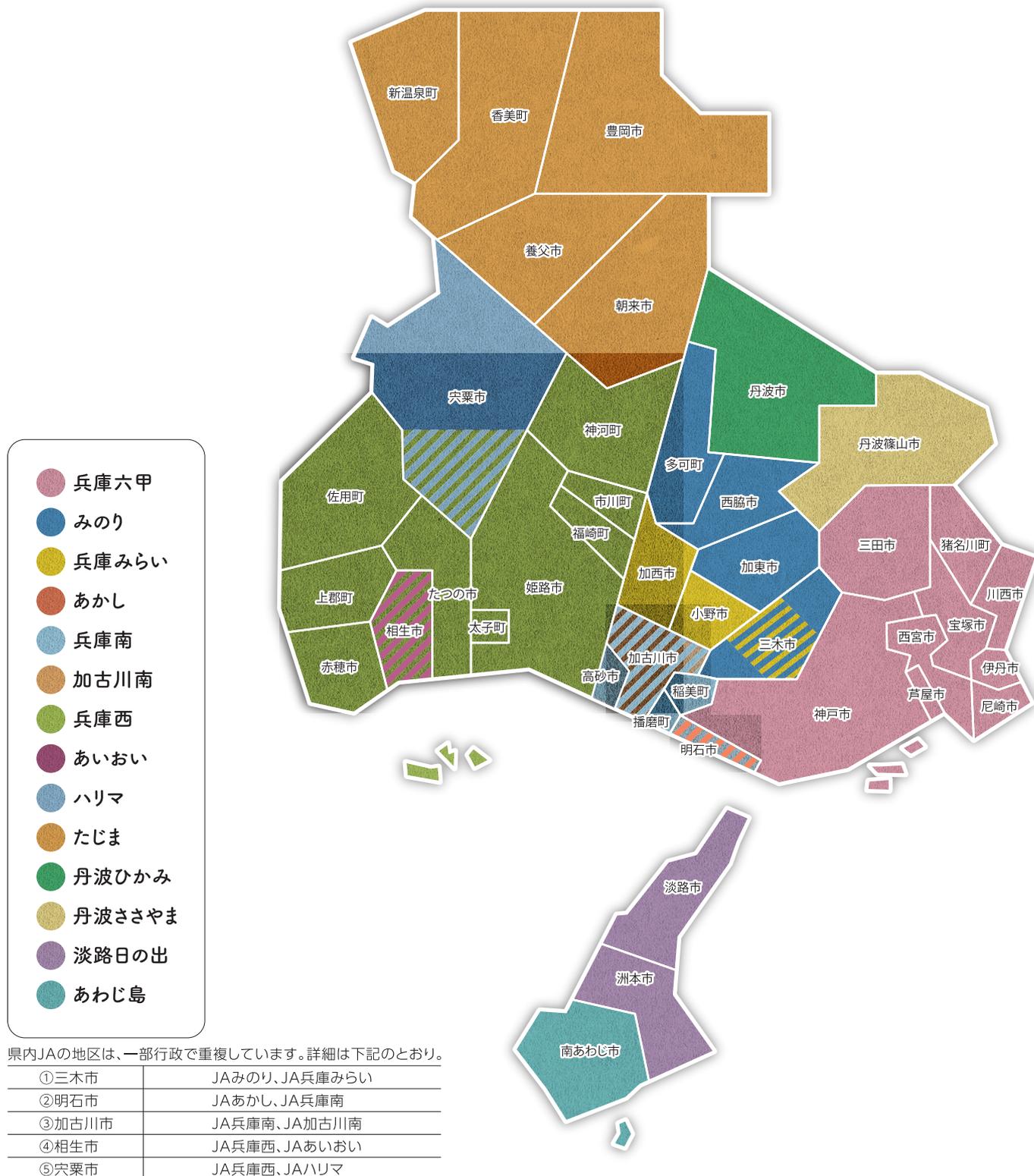


- 年齢：7歳／小学2年生
- 性格：いつも明るく元気、食べること大好き、好奇心旺盛、思っていることは素直に言っちゃう
- 特技：「食のポーズ」をカッコよく決める! (右図)
- 口ぐせ：パク!

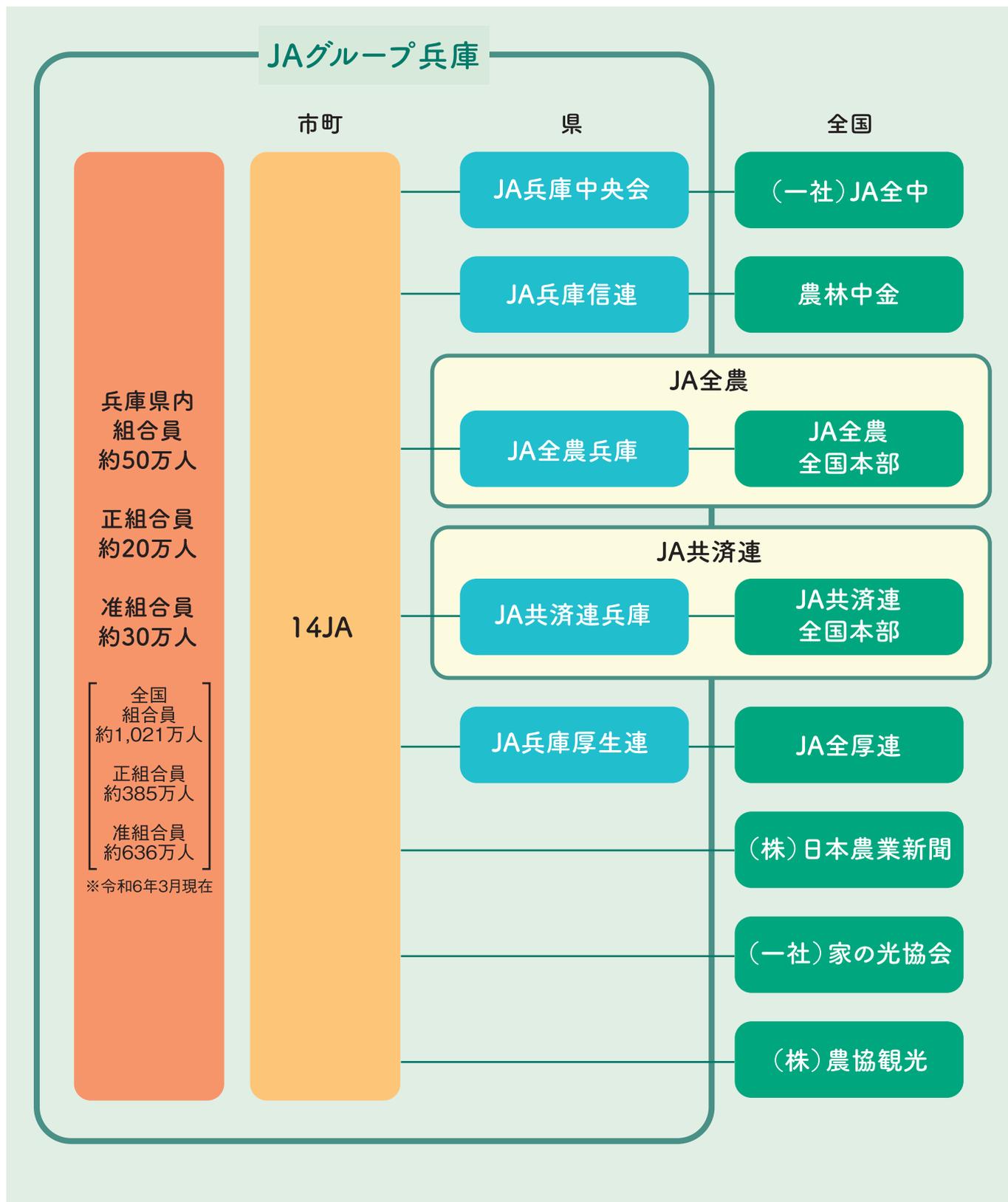


06 JAグループ兵庫の組織について

兵庫県内には14のJAがあります。そして、JAグループは、協同の力をより大きくし、効率的に事業を行っていくために、都道府県域や全国域に、JA等を会員とする中央会、信連、全農、共済連、厚生連などの連合会が組織されています。



組合員数



07 食を支える兵庫県農業

北は日本海、南は瀬戸内海から太平洋につながり、中央には中国山地がそびえる兵庫県では、地域によって自然条件が異なります。農業においても、平地、中山間地、都市部で環境が異なり、米、野菜、畜産など生産している品目もさまざま、そうした多様性が豊かな食を支えています。



● 全国で上位を占める兵庫県の主な農畜産物

	品目	生産量等	全国順位(シェア)	主な産地
米	山田錦(酒米)	18,956t	1位(54.8%)	播磨地域
	豆	丹波黒(黒大豆)	700t	1位(34.9%)
野菜	たまねぎ	97,800t	2位(8.4%)	淡路地域
	レタス	22,800t	6位(4.2%)	淡路地域
	しゅんぎく	1,140t	6位(4.6%)	神戸・阪神地域
	はくさい	20,200t	7位(2.4%)	淡路地域
	キャベツ	24,400t	11位(1.7%)	淡路・神戸地域
果実	いちじく	1,170t	4位(11.5%)	神戸・阪神地域
	びわ	144t	6位(6.2%)	淡路地域
	くり	416t	7位(2.8%)	丹波・阪神地域
花き	カーネーション	16,200千本	4位(8.9%)	淡路地域
	花壇用苗もの類	23,500千本	7位(4.6%)	神戸・播磨地域
畜産物	生乳	74,179t	14位(1.0%)	播磨・淡路地域
	肉用牛	58,400頭	10位(2.2%)	淡路・播磨・阪神・但馬地域
	鶏卵	99,427t	9位(4.1%)	播磨地域
	ブロイラー	12,985千羽	12位(1.8%)	但馬地域
	はちみつ	72t	11位(2.7%)	播磨・阪神地域

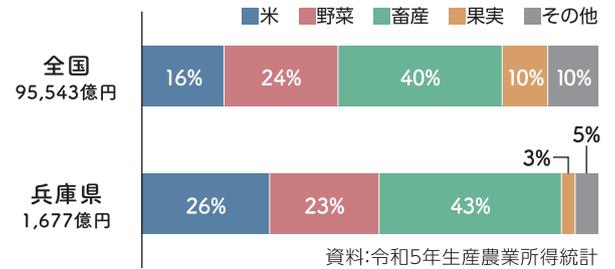
資料:兵庫県「ひょうごの農2025」(令和7年3月)

農業産出額

本県の農業産出額は1,677億円(全国21位)で、近畿地方(6府県)の34%を占めており、京阪神都市圏の食料生産基地として重要な地位にあります。農業産出額の構成比を見ると、米(26%)、野菜(23%)、畜産(43%)となっています。



● 農業産出額(令和5年)



農家数

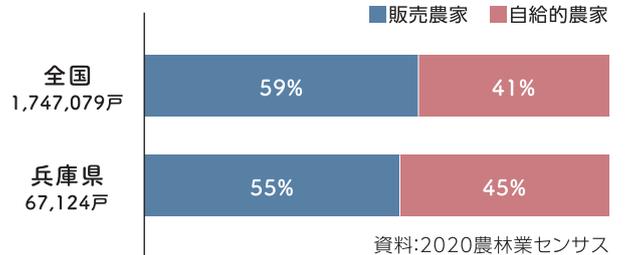
本県の総農家数は67,124戸(全国3位)で全国1,747,079戸の約3.8%を占めています。そのうち、販売農家は37,025戸(全国5位)で全国1,027,892戸の約3.6%、自給的農家は30,099戸(全国3位)で全国719,187戸の約4.2%を占めています。総農家のうち販売農家が占める割合は55%で、全国平均(59%)より小さくなっています。

*農家とは、経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯又は経営耕地面積が10a未満であっても、調査期日前1年間における農産物販売金額が15万円以上あった世帯をいう。なお、「農業を営む」とは、営利又は自家消費のために耕種、養畜、養蚕、又は自家生産の農産物を原料とする加工を行うことをいう。

*販売農家とは、経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家

*自給的農家とは、経営耕地面積が30a未満かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家

● 総農家数構成比(令和2年)

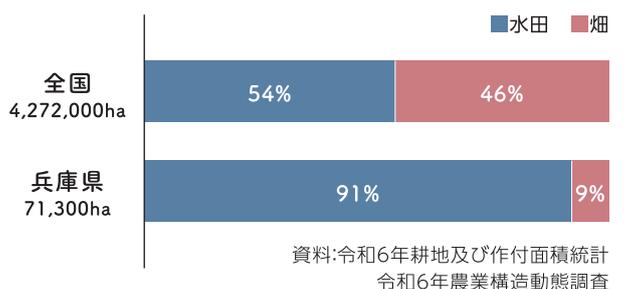


耕地面積

本県の耕地面積は、71,300haです。そのうち水田面積は65,200haで、耕地全体に占める割合が全国(54%)と比べると極めて高く、91%となっています。1経営体当たりの経営耕地面積は1.4haで、全国(3.6ha)の半分以下であり、小規模な経営が大半を占めています。



● 耕地面積の構成比(令和6年)





JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。



2026年2月制作